

## エマソン・エグリッチ著 「愛されたい妻と尊敬されたい夫」

### あなたが必ず出てくる本

「愛されたい妻と尊敬されたい夫」（原題は『愛と尊敬』）という率直なタイトルに、まず私は感動した。こんな素直で分かりやすいタイトルを著名な牧師があえてつけた意味と意気込みを感じたからである。

と同時に、私は何か胸騒ぎがした。「この本を通して、私はまた神さまの前に裸にされるのではないか」という怖れであった。それは私が「クリスチャンでない夫をもつ女性たちへ」という告白書を神さまに書かされた（あえてこういう表現を許してほしい）ときの臨在感を感じたからである。そしてこの思いは的中した。「すごい本が出たものだ」と唸った。

私がクリスチャンになって25年目に、夫が自らの意思で礼拝にくるようになった。その葛藤と悔い改めを書いたのが「クリスチャンでない夫をもつ女性たちへ」だった。やっと夫を理解できたような気持ちになっていた。

しかし、それがいかに自己中心で傲慢であったか、神の

願いと程遠いものであったか、本書は、私の脳天に一撃を与えたのである。その痛みと余韻は、薄れるどころか、ますます私を打ちのめしている。

あなたは金太郎飴（あめ）という古いことばを知っているだろうか。このセピア色のことばを知っていてくれたら私の言いたいことが分かってもらえるはずである。そう、どこを切っても、同じ顔が出てくる棒状の飴のことである。

本書は、どこを開いても、どこから読んでも「愛されたい妻と尊敬されたい夫」という命題が出てくる。まるでベルトコンベアのように、あとからあとから完成品が流れてくるように、この命題はあなたの生活も日常も埋め尽くしていく。もう逃げ場はない。観念してこの命題に向き合うしかない。

本書には、必ずどこかにあなたが出てくる。それは間違いない。しかもそれは抽象的な教えや想像ではなく、具体的で会話的で実践的である。きつとあなたは哑然とするだろう。そしてほんの少し読み進んだところで「分かりました、神さま」と小さな声で告白するだ

ろう。そしてあなたはまったく新しい視点と視野を与えられて健気に立ち上がるのである。そう、夫も、妻も、そしてあなたの愛するあの人も。

神の愛は無償である。神は夫婦という単位を通して私たちにも無償の愛を経験させようとしていてくださる。その最も身近で最も難しい相手が、妻であり夫なのである。

自分では愛せない、自分はどうしても相手を尊敬できない、確かに見返りを求めるなら、とてもしないだろう。

しかし、神がさせてくださるとき、どんなことでもできる。それが信仰である。信仰は神から発している。その神の愛と約束が示されているのが聖書である。

神が喜んでくださる、神がその力を与えてくださっている、そう信じて、夫を尊敬し、妻を愛するならば、そこに神からの自由と喜びがあふれると、本書は力強く宣言する。なぜなら、神はそのよい行いをあらかじめ備えておられるからである。

「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです」（エペソ2章10節）

評者・神津喜代子（こうつききよこ）  
／大野キリスト教会主事



### 「愛されたい妻と尊敬されたい夫」

A5判 並製 336ページ  
1,785円（税込）

本書はファミリー・フォーラム・ジャパンから発売しています。